

も 棚田に^も萌えて、棚田の保全と活用に情熱を^も燃やす！ ～「株式会社トロノキファーム」さんのご紹介～

十日町市蒲生（かもう）にある株式会社トロノキファームさんは、地域の棚田の保全に取り組むとともに、棚田の魅力を生かした農家民宿の経営を行っています。

代表の阿久澤さんと棚田との出会い

阿久澤さんは、20年以上にわたり国内外の著名ホテルの経営に携わってきました。経営者として大きなストレスを抱える中で、たまたま広告で目にした「大地の芸術祭」を見に十日町市に来て、棚田と出会い、その魅力に惹かれ、十日町市に通うようになります。あまりの感動で「棚田萌え」してしまったそうです。

2018年には、ホテル経営の経験を活かして棚田地域の振興を図ろうと、蒲生の古民家を購入し、農家民宿「トロノキハウス」をオープンしました。



代表の阿久澤さん 笑顔で収穫作業

棚田の保全と復田



保全活動に参加するサポーターの皆さん

その後、離農する耕作者からの依頼をきっかけに、地元の元区長、元地域おこし協力隊員など多様なメンバー5人で（株）トロノキファームを設立し、「儀明の棚田」の保全活動を開始します。

メンバーによる作業に加え、田植えや稲刈りの時期には、トロノキハウスの宿泊客やそこからの口コミで活動を知った人たちが、棚田に心の癒しを求めて、全国から手伝いに訪れます。

さらに、今年4月には、耕作放棄が進んでいた「蒲生の棚田」について、「今復田しなければ消滅してしまう」との強い思いから、十日町市の支援も受け40アールを復田しました。

農家民泊「トロノキハウス」

「トロノキハウス」では、棚田に観光客を呼び込み地域を元気にするため、里山での生活体験・郷土料理の提供・棚田での農業体験など付加価値の高いサービスを提供しています。

阿久澤さんは「都会でのストレスが大きいほど山里や棚田の価値が上がっていく。その価値をさらに磨いていきたい。」と語られていました。今後は、棚田の有する「景観価値」「経験価値」「環境価値」をコンセプトに、棚田に癒しを求めに来る人たちに様々なサービスを提供する「棚田パーク」を作りたいとのこと。

阿久澤さんたちの棚田ドリーム(?)の実現が待ち遠しいです。



地元の食材を使って郷土料理を提供